

1 はじめに

世の中を生き抜いていくために必要な「生きる力」を培うことが学校で必要とされている大きなものの一つです。そのためには、人とかかわっていく「コミュニケーション能力」の育成や、自己を見つめ正しく目標を設定できる「目標設定スキル」、進むべき方向性を正しく判断できる「意思決定スキル」、困難にもめげない「ストレスマネジメントスキル」などの育成が必要です。その土台となっているのが自己肯定感（セルフ・エスティーム）です。

そこで、私は自己肯定感の育成を学校経営の柱としています。

※ 自己肯定感の3つの構成要素（諸説あります。）

自己有能感・・・自分には課題を解決し困難を乗り越える力があると感じる感覚

自己有用感・・・自分は人の役に立つことができると感じる感覚

絆感・・・・・・・・自分は一人じゃない、自分には支えてくれる人がいると感じる感覚

一昨年度は「今の自分が好き」と思えるように行動しようを合言葉として、「今できるベスト」を考え行動できました。そのことで子どもたちの自己肯定感の育成がいつそう図れたと考えます。昨年度は「一歩踏み出す」を合言葉に様々な活動、学習・生活・行事等を行ってきました。それは何でもかんでもチャレンジしようということではなく、自分を振り返り、課題に気づき、その対策を考え、その上で「実行した方がいいと思うことなら、『えいっ』とやってみよう」ということでした。たくさんの方が勇気をもって「一歩踏み出し」取り組む姿が見られました。その結果が決して思い通りにならなかったとしても「一歩踏み出せた」ことが自信となり「次もまたチャレンジしてみよう！」と好循環をわき起こすことができたと実感しています。

今年度はこの2年間で培った能力を活用しながら「チーム梶田 ～梶田小のために私はなにができるのか?～」を合言葉に取り組んでいきたいと思えます。

言葉が適切かは分かりませんが名前だけの「チーム〇〇小」はよく聞きます。

名前だけではなく、梶田小の皆さんで（子どもたちも、保護者・地域の皆さんも、教職員も全員で）「チーム梶田」を作り上げていきたいと思っています。

自分を安心してさらけ出せる（みんな違って、みんな良いんだ!）と思える梶田小

自分にできることに関しては一人ひとりが誠意をもって行おうとする梶田小。

自分なりに努力したけれどどうにもならないことは仲間がサポートしてくれる梶田小。

悩んでいる仲間にはそっと声をかける。一緒に悩む梶田小。そんな学校を目指します。

校長としては、子どもたちに、具体例を挙げて「自分は何ができるのか?」これから、ことあるごとに呼びかけていこうと思えます。

始業式で全校児童に話した内容は以下のような内容です。（本校HPより要約）

☆梶田小の一員として 大きく2つ

- 1) 恥じない行動を 例) 迷惑をかけない行動を（道一杯広がって歩いたり 大きな声で騒いだり）悲しい想いをみんなにさせないように（事件・事故にあわないように）
- 2) もっと梶田小を良くする努力を 例) ごみが落ちていたら拾える 危ないから廊下は走らない 委員会の活動で見えないところで 1年生のお世話をする ココアの世話 トイレトペーパーの補充 放送当番等々 （さらには）児童会・代表委員会で梶田小でみんなが楽しく過ごせるような提案をする。（あいさつ運動 プラス1の仕事ぶり）☆

教職員と去年まで同様「仕事は厳しく、生活は愉しく」を実行して行きたいと思っています。そして、教職員には私から以下のように話しました。

☆児童が「チーム栲田」の一員として行動・活動できるよう、教職員には児童に寄り添い、意図的計画的な指導を行うことで自己肯定感を高めていきましょう。

常に「栲田小のために今の自分にできることは何なのか」子どもたちに投げかけ、子どもたちの実態にあったスモールステップを準備して声掛けをして実行させ達成感を味わわせていきましょう。上手くできた時に価値づけて気付かせてあげてください。上手くいかないときもあると思います。そんなときにはフォローを心がけるようお願いします。クラス内の雰囲気づくりも心がけてください。こういった行動が「チーム栲田」を作っていくと思います。☆

子どもたちの個性を伸ばすためにさまざまな活動を今年度も進めていきたいと思っています。

- 1) 音楽 スポーツ（プロ選手を招聘） 読書 天体観測等々展開してきました。地域等を巻き込んでさらに進めていきたいと思っています。
- 2) 「安心安全な居場所づくり」の第2弾として「朝の放課後こども教室」の実施を進めています。

保護者に共稼ぎ世帯が多くなり家を早く出る必要のある子の増加、朝の時間の子ども管理・教職員の勤務時間の関係、等もあり必要と考えています。アンケート調査でも一定数が「利用したい・あれば利用したい」との回答が寄せられています。天候等に左右されないよう原則「毎朝、体育館での実施」を検討中です。そのことで児童の居場所確保とともに、保護者と学校とのより有効な信頼関係を築いていきたいと思っています。

今年度も「今できるベストの教育」を目指し、「できるかできないかではなく、どうやったらできるか」を考え、「時間がかかっても実現すべきことは粘り強く努力を続け」保護者・地域・学校が一つとなり子どもたちのその可能性を追求できる環境を整えていきます。

2 教育目標

- よ よく考える子
- ◎い いつも元気な子
- こ こころ豊かな子

本年度も、「いつも元気な子」を重点目標として、学校の教育活動全体を通して生きる力を育成するとともに、「よく考える子」「こころ豊かな子」についても関連する具体的な取り組みを通してお互いに充実させながら、豊かな心を醸成し、自ら生き活きと学習に取り組む児童の育成を図る。

3 目指す学校像

目指す学校像を

- 子どもたちが「学びたくなる学校」
- 保護者が「通わせたくなる学校」
- 地域が「誇りに思う学校」
- 教職員が「勤めたくなる学校」と設定する。

この目標に向かって、保護者・地域・学校が力を合わせ、日々の実践に努める。その実現に向けて教職員が共通意識をもち、一人ひとり、そして学校組織として具体的な取組を進めていく。

(1) 子どもたちが「学びたくなる学校」とは。

自己肯定感を高める教育活動を本校の教育の基本とする。

- ・スモールステップ
- ・注意しなくてもいいよう「先回りした」指導
- ・良さを認め、気付かせる（シェアリング）
- ・手を出さずに見守る場面
- ・教え込む必要がある場面
- ・子どもたちの良さを引き出すための意図的・計画的な指導

- ① 基礎的基本的な能力（学力・態度・実践力等）の定着を図り、さらに、変化の激しい時代でもたくましく生き抜く力や筋道立てて考える力を身に付けさせるため、分かる授業を日々実践する学校。プログラミング教育等の実践を行う。
- ② 地域の自然・文化・人材を生かした教育を実践し、ふるさとを、誇りに思う子どもたちを育てる学校。
- ③ 可能な限り子どもたちとともに遊びそして学び、子どもたちのどんな声にも目と耳を傾け、子どもたちの良さを伸ばし、過ちは教え諭す教師がいる学校。
- ④ 子どもたちが主体的に取り組める授業を進め、対話活動や意見交流を行うことで自分の考えをもって（主体的）伝え合い、深い学びが可能な授業を行う学校。

(2) 保護者が「通わせたい学校」とは。

- ① 基礎学力、規範意識を定着させ、体罰、いじめ、不登校が無い学校。
体罰だけでなく、言葉の暴力、差別的な発言、不適切な指導にもいっそう留意する。
- ② 安全対策が十分であり、安心して学び遊べる学校。
- ③ 「初めに子どもありき」「子どもたちとともに」が感じられ「分かる授業」が実践されている学校。
- ④ 教職員が一致協力して、目標に向かっている学校

(3) 地域が「誇りに思う学校」とは。 ～地域の中核たる存在へ～

地域から愛され、「応援したくなる学校」を目指す。※「応援される」のは当たり前！

- ① 学校教育で地域教材を取り上げたり、地域の方をゲストティーチャーとして招いたりして、地域と密着し、地域を大切にしようとする教育が行われている学校。
- ② 梶田小の教育を温かく見守り、ボランティア活動に参加してくださる方々に、感謝と敬意の気持ちをもつ子どもたちを育てる学校。※安全ボランティア ※OBの活用
- ③ すすんであいさつし、明るく元気な子どもたちを育てる学校。

(4) 教職員が「勤めたい学校」とは。

- ① 子どもたちの伸長を喜び、明日の子どもたちとの出会いが待ち遠しい学校。
- ② 互いに 尊敬し合い協力し合い信頼し合い、組織体として、組織の一員として職務の遂行に、責任をもってあたっていく学校。
- ③ 自己の健康や安らぎはもとより、同僚の健康や家庭にも思いを馳せる豊かな人間関係のほとばしる学校。「仕事は厳しく、生活は愉しく」
- ④ 努力の過程をお互いに評価し讃え合い「努力は裏切らない」を教師自身も実感できる学校。（たとえすぐに結果が現れずとも。）

4 今年度の合言葉 「チーム栲田」～栲田小のために私は何ができるか！？～

今年度も自己肯定感の育成を中心に置いた学校経営を行う。

一昨年度は自己肯定感全般にかかわる基本的な行動目標として「今の自分が好き」と心から思えるよう行動し自己肯定感を高めてきた。昨年度は「自己有能感」をより育成するため「一歩踏み出す」を合言葉とした。今年度は昨年度まで培った自己肯定感を活かし、「チーム栲田」を合言葉に「栲田小のために私は何ができるか！？」と常に意識して（子どもたちには意識させて）すべての活動を行って行く。

自らを見つめ、自らの課題に気付き、解決方法を考え、実行していく。栲田小のために解決できなくても失敗から学ぶ、教職員は児童に寄り添い、意図的計画的な指導を行うことで自己肯定感を高めていく。

5 令和8年度 of 取組目標と方策（本年度の達成課題）

(1) 子どもたちが「学びたくなる学校」

- ①特別な支援が必要な子どもたちへの指導・対応（学校サポーター等の活用）
- ②分かる授業・落ち着いた学習を進める。（めあての明確化）
- ③体力向上・保健指導・食育など、総合的に健康教育を推進することで、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送るための基礎を培う。（体育的活動、検診時の保健指導、食育等）
- ④交通事故0 いじめ0 不登校0 を目指す。
- ⑤縦割り班活動のさらなる充実を図る。年間を通して活動を行う。
- ⑥ICTの授業でのより有効的な活用（一人一台端末の有効活用を含めて）

(2) 保護者が「通わせたい学校」

- ①学級の荒れ0 体罰0 服務事故0。
- ②保護者からの苦情対応を的確に行う。
- ③国（6年）市（4～6年）各学力調査で、市の平均点以上を目指す。
- ④安心・安全な居場所づくり。（放課後子ども教室のさらなる充実）

(3) 地域が「誇りにしたくなる学校」

- ①学運協、町会・自治会等とのスムーズな連携を行う。
- ②地域教材や人材の活用 子どもたちの生活に根ざした学習活動を取り入れる。
- ③地域から愛され「応援したくなる学校」を目指す。単に「（応援）される学校」ではなく、「（応援）したくなる学校」を目指す。

(4) 教職員が「勤めたい学校」

- ①働き方改革の一層の推進を行う。
- ②もしもの時のサポート体制がとれる学校。
- ③校内研究の充実。公開授業を見合う機会を設ける。自己研鑽。
見せ合い学び合い、ともに成長し、ともに達成感を味わい絆感が深められる学校。
- ④努力が報われ、すぐに結果は出なくとも「努力は裏切らない」と信じられる学校。